

第2回経済地理学会論文賞選考結果

候補者名 : 則藤 孝志

受賞論文 : 「アジアにおける梅干し開発輸入の展開とそのメカニズム」

(経済地理学年報第58巻第2号, 2012年, 100-117ページ)

受賞理由 :

本稿は、梅干しを事例として開発輸入の展開とそのメカニズムについて、マクロとミクロの両視点を組み合わせて明確化した研究である。ミクロ的には、加工業者の企業行動とそれを規定する諸要因の分析から開発輸入メカニズムを明らかにし、マクロ的にはアジアの経済発展や日本の市場動向などの経済的要因に加えて、日本・台湾・中国の間の言語の共通性や信頼の度合い、政治的対立の有無といった文化的・政治的要因をも射程に入れて企業行動の展開を解明している。

本稿は、海外生産と国内生産との競合や関係性についてグローバルな観点から分析しており、その点にオリジナリティが認められる。また、本稿をベースに他の農産品をもカバーしていくと、日本の食糧供給体制を論じるために基軸となる重要な視角の1つを提示できるため、それに向けた基礎的研究として今後の発展も期待できる。

開発輸入を対象とした実証研究は、これまで主に農業経済学や開発学の分野で蓄積されてきた。これに対して著者は、開発輸入の実態やメカニズムに接近するうえで、産地形成や立地移動の視点が重要であるとする先行研究を踏まえつつ、開発輸入の展開をアジア諸国・地域が戦後経験した経済発展のなかに位置づけるという視点を打ち出した。梅干し開発輸入は長い経験を有しているが、著者は1980年代後半以降の梅干し開発輸入の構造変化に着目している。とくに1990年代に起こった台湾から中国への産地移動の展開を規定した諸要因を、経済的要因に加えて、文化的距離や政治的距離の概念を用いて分析した点がユニークである。

以上の理由により、経済地理学会論文賞選考委員会は、受賞論文が、内規第3条で規定される対象論文のなかでもっともすぐれた論文であると判断し、則藤孝志会員を第2回経済地理学会論文賞候補者として推薦する。

2014年4月12日

第2回経済地理学会論文賞選考委員会 : 秋山道雄(委員長), 荒木一視, 神谷浩夫,
橋本雄一, 山崎 朗, 近藤章夫